

淡海生涯カレッジ甲賀校の実践

甲賀校実行委員会

1. テーマについて

平成27年度、淡海生涯カレッジ甲賀校開校。講座は、地域の人材・施設を活用した問題発見学習と地元県立高校・養護学校での物づくり実習・ワークショップ、そして、立命館大学における理論学習の3部構成となった。

テーマを「郷土の知恵と技に学ぶ」とし、有形・無形の文化財や地域の課題についての知識を習得し、それを基礎としながら、①それぞれのライフステージを充実させる ②一人ひとりが社会に主体的に関わっていくための技能や判断力を身につける ③地域活動（コミュニティ活動）やボランティア活動の実践に結びつけるの3ステップを学習目標として掲げた。



(広報用ポスター)

甲賀市には、古くから隣組組織があり、寺社を核とした檀家・氏子制度がある。甲賀武士団が活躍した中世には「郡中惣」という強力な自治運営組織があった。生産活動については、農業・茶業・林業・窯業…共に気候や地形などの自然条件を生かした特徴ある発展があった。



そこで、こうした地域の特性をふまえ、学習の窓口を、①暮らしの技に学ぶ ②伝統の技に学ぶ ③匠の技に学ぶ ④人を繋ぐ技に学ぶ、以上の4領域に整理し、前述した文化財や受け継がれてきた熟練の技を題材とした講座や地域を繋ぐムラづくりの現場からの報告を講座に組み入れ、地域の課題発見に努めることにした。実習講座には、作陶や皮革工芸、和の心や人の尊厳についての学習を入れ、学習の深化を図ることにした。結果、まちを見る目を磨くための縦・横軸となる歴史・地理両面を視野に入れた多岐にわたる学習課題の設定となった。

そして、大学での理論学習に繋ぎ、受講生一人ひとりが、サブタイトル「新しい自分づくりとまちづくり」の下で自分を一層磨き、それぞれの立場で、新しいまちづくりへの参加意欲を高めることに期待して、甲賀校は新規開校となった。

講座一覧は次表（表1）のとおりである。



(表1)

平成27年度 淡海生涯カレッジ甲賀校講座一覧表				
【問題発見講座】				
回	月 日	会 場	講師 (敬称略)	テ ー マ
1	6月13日(土)	甲南図書交流館	立命館大学客員教授 金井 萬造	技芸の伝統から地域を見直そう ～環境・生活・文化・交流～
2	6月27日(土)	県立陶芸の森	陶芸の森館長 川口 雄司	焼き物の魅力を知る ～地場産業「信楽焼」について～
3	7月11日(土)	貴生川公民館	飯道山観光協会相談役 山田 耕造	飯道山が結ぶ地域の輪
4	7月25日(土)	油日神社、櫛野寺	甲賀市歴史文化財課参事 長峰 透	歴史ある寺社と華麗な建築美
【実験・実習講座】				
回	月 日	会 場	講師 (敬称略)	テ ー マ
5	8月 8日(土)	県立信楽高等学校	同校セラミック科 杉村 大樹	焼き物づくりに挑戦 ～陶製「表札」の作成～
6	8月29日(土)	県立水口東高等学校	同校教諭 縄田 美夏	皮革工芸を楽しもう ～皮革工芸によるオリジナルの小物づくりに挑戦しよう～
7	9月 5日(土)	県立三雲養護学校	同校教諭 寺岡ゆみ子	障がい者理解を進めるために ～疑似体験プログラムを使って～
8	9月12日(土)	県立石部高等学校	同校教諭 三好 有佳	和のおもてなし ～家庭でできる季節の和菓子づくり～
【理論学習講座】				
回	月 日	会 場	講師 (敬称略)	テ ー マ
9	10月 3日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	立命館大学経営学部教授 肥塚 浩	超高齢社会の医療介護連携と生活支援サービス
10	10月10日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同スポーツ健康科学部准教授 藤本 雅大	運動機能の評価と介護予防に向けた運動療法
11	10月17日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同スポーツ健康科学部教授 藤田 聡	家庭で取り組む筋トレ (健康バンド運動)
12	10月24日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同経済学部教授 松原 豊彦	農と地域の未来を開く「6次産業化」
13	10月31日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同経済学部教授 松原 豊彦	消費動向をみすえた6次産業化の推進
14	11月14日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同経済学部客員教授 金井 萬造	着地型観光手法によるコミュニティ・まちづくり
15	11月21日(土)	立命館大学びわこ・くさつキャンパス	同経営学部教授 肥塚 浩	ひとのつながりを活かした地域づくり

2. 実施体制について

平成27年5月20日、第1回実行委員会開催。役員選出(表2)後、開催要項の検討、講座内容・収支予算の承認を行った。また、事業の円滑化を図るため、前湖南校より運営委員として3名を実行委員にお願いした。

その後、応募状況の中間報告を行い、定員(30名)超過が明らかになったため、抽選を行うことにした。(応募者最終状況:表3)

淡海生涯カレッジ甲賀校実行委員会名簿 (表2)				
NO	委員等	所 属	氏名(敬称略)	役職
1	実行委員	甲賀市教育委員会教育長	山本 佳洋	校長
2	実行委員	立命館大学教授	岡本 直輝	座長
3	実行委員	立命館大学地域連携課長	古橋 由一郎	副座長
4	実行委員	県立信楽高等学校教諭	青木 正和	
5	実行委員	運営委員	姉川 孝一	会計
6	実行委員	運営委員	松尾 裕	監査
7	実行委員	運営委員	伊藤 清美	
8	実行委員	社会教育委員の会議委員長	一宮 守	監査
9	実行委員	滋賀県教育委員会事務局生涯学習課社会教育主事	辰己 剛	
10	実行委員	甲賀市教育委員会事務局社会教育課長	澤田 邦広	実行委員長

応募者最終状況(表3)	
応募者総数	57名
男	30名
女	27名
市内	36名
市外	21名
年代別20代	2名
30代	2名
40代	2名
50代	7名
60代	30名
70代	12名
80代	2名

3. 受講者について

厳正な抽選により30名の受講生が決定した。しかし、応募者の中に強い受講希望があり、条件が許す講座に限り一部受講生として6名の出席を認めることにした。計36名の内訳は、男19名、女17名、市内21名、市外15名で、年代別では、60代が最も多く19名、ついで70代の7名となった。

以下、これまでに終了した講座について、受講生の声を一部記す。

第1回講座

- ・「自分はどんなまちに住みたいのか」の願いを、まず持ちたい。
- ・地域の技芸を高齢者の力を借りて高め、人づくりに努め、若者に繋いでいきたい。
- ・自分の考え方と社会の価値観に違いのあることがわかった。
- ・産業、文化、観光、生活など、あらゆる分野で地域の持つ力を最大限活用する方法をさぐりたい。
- ・本日の講義は概論であり、間口が広すぎた。次回以降に実例を聞きたい。
- ・本日の講義を受け、今後の講義の奥深さを感じ、学びたい思いが高まった。

第2回講座

- ・信楽焼を歴史からしっかりと学んで鑑賞する初めての機会となった。
- ・陶土の確保をどのようにされておられるのかをずっと疑問に思っていたが解決した。
- ・ライフスタイルの変化に合わせてながら、信楽焼がどのように変化してきたのかを知り、生活に根ざした生産活動が必要だと思った。
- ・芸術性の追求と産業としての陶器づくり、この融合、調和、発展が難しい。
- ・登り窯に初めて接したこと、外国人アーティストと話したことなど、ワクワクすることが多かった。
- ・川口館長の話やPPがわかりやすく、大変興味を持った。もっと時間がほしかった。
- ・岡本太郎展では、タイトルのごとく、その言葉から、作品の力強さを感じた。
- ・問題を投げかけていただき、ワークショップ等で深く掘り下げればいいのか、と思う。



(金井講師: 技芸の伝統から地域を見直そう)



アトラクション 「大人ののおはなし会」
ボランティアグループ:「紙ふうせん」



(川口講師: 焼き物の魅力を知る)



(登り窯前で学芸員説明)

第3回講座

- ・地域のつながりを、信仰を通じて関わり深く取り組まれている様子が大変よく伝わってきた。
- ・「利他の心」は、地域で生活をしていく上で、また、社会の中でよりよく生きていく上で大切にしなければならないことを再認識した。
- ・飯道山が比叡山・高野山と関わりのある信仰の山であることを知らなかった。
- ・近くに住んでいながら、一度も登ったことがない。地域を知るいい機会になった。是非登ってみたい。
- ・木食応其上人の遺徳に触れ、また、多くの資料を準備していただきありがたかった。
- ・今日は「生き方」の学習をした。普段は気づかずに過ごしていることが多いのだが、「考えること」が大切であることを教わった。
- ・忍者と修験道信仰・行者、飯道山とのつながりをもっと詳しく聞きたかった。

(飯道山行者講:夏まつり)



(山田講師:飯道山が結ぶ地域の輪)

第4回講座

- ・豊富な森林資源が社寺建立の用材調達を可能とし、後の製材業や大工職を育て、現在の産業を生み出した。
- ・歴史的な背景を学んだこともあって、油日神社の楼門・廻廊・拝殿・本殿のすばらしい容姿に魅了された。
- ・甲賀の前挽鋸が、県下初の国文化財に指定された。我が家にあった当時の古い道具を残しておけばよかった。



(前挽鋸)

- ・「甲賀郡中惣」という自治組織形成に興味を持った。
- ・櫛野寺の木造十一面観音坐像が安置された理由を学習した上、ご住職の特別な計らいで拝観できたことは幸運であった。
- ・長峰先生には、短時間に盛り沢山の内容を、立て板に水のごとく雄弁にご講義され、聞き惚れた。時間を延長してでも聞きたい位だった。
- ・わかり易い資料と説明、および現地での見学と詳細な説明で、甲賀の歴史と文化そして、地域の繋がりの中で変遷・発展を経て、今の甲賀がある過程がよくわかり、興味深くご講義を拝聴することができた。



(長峰講師:歴史ある寺社と華麗な建築美)



(櫛野寺住職の話)

(市東北部・鈴鹿眺望)



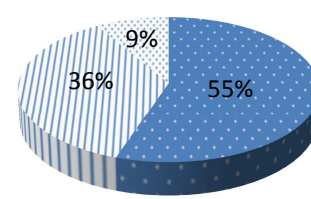
4. 学習記録より

本校では、毎回、受講生に配布した講座日誌に学習の記録を記入し、提出を求めている。その内容は、講義の内容（グラフ1）と講義の難易度（グラフ2）そして、記述方式で、印象に残ったこと、講義に関する感想、気付いた点の5項目である。

問題発見学習計4回を終わった時点での状況は、各回により違いはあるが、集計をすると円グラフのとおりである。

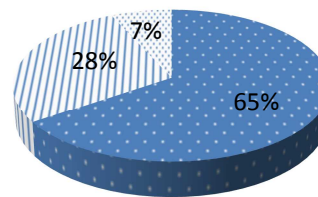
内容・難易度とも良好であったことがうかがえる。印象や感想については、前項で示したので、その他、運営面での意見を記す。

講座の内容について(グラフ1)



- とても興味深かった
- ▨ 少し興味をもてた
- ❖ あまり興味をもてなかった

講座の難易度について(グラフ2)



- 理解できた
- ▨ 理解できない部分があった
- ❖ 全く理解できなかった

- ・市内にあるこのような名所・旧跡をもっとPRして、多くの方に来てもらいたい。
- ・屋外で案内役に立っていただき感謝します。スタッフの方の健康が心配だ。
- ・コーヒーの準備がうれしかった。
- ・バスでの移動など、細かな手配がありがたかった。
- ・受講生同士の交流の場をつくってほしい。
- ・他の受講生のお考えやお受け取り方が知りたい。
- ・名前は聞いていても、実際に行ったことがなかった。いい機会となった。
- ・現地学習は、よくわかって楽しく学べた。
- ・資料が多い場合、資料番号などをつけていただくとありがたい。
- ・メモをとるための机は各回とも準備してほしい。
- ・時間の関係もあるが、学生への講義ではないので、もう少しゆっくりと話してほしい。
- ・会場がわかりにくいので、のぼり旗などを用意されてはどうか。
- ・部屋のエアコンの効きが悪く暑かった。

5. 次年度以降の運営について

(1) 運営組織

平成27年度は、実行委員数10名で臨んだが、講座の組み方や運営委員・事務局スタッフとの関わりで、その増減を考えなくてはならない。

(2) 学習テーマ

実施要領では、現代的課題の中からニーズに応じて年度ごとに学習テーマを設定することになっている。本市における課題は、①生命・健康 ②人権・豊かな人間性 ③家庭・介護・子育て・福祉 ④地域連帯・まちづくり・交通・環境・情報活用 ⑥産業…と、多方面にわたっている。学習に入る順位づけも、実行委員会で今後検討していきたい。

(以上)